序

筑波大学は2004年に法人化され、すでに５年が経過しました。2009年度は６年間の中期目標の最終年度にあたり、その評価と次期中期目標の策定の年となっています。附属学校にも中期目標の設定が求められ、本校では自らを「トップリーダーを育てる教育の実験的実践校」と位置づけ、様々な取り組みを行ってきました。附属学校として大学との連携が求められる中で、「筑駒「リーダー形成」プロジェクト」など、筑波大教員との共同研究も活発に展開してきました。さらに、附属駒場中高等学校連携小委員会を常設し、多数の大学教員にご参加いただき、大学との連携のさらなる深化にもつとめております。本校OBや筑波大学教員による社会貢献プロジェクト「筑駒アカデメイア」も2007年より開始し、一般向けの講演会と本校生徒による地域小学生向けワークショップなどで、地域貢献にも積極的に取り組んでおります。昨年度試行され、2009年度から本実施となります教員免許状更新講習においても、附属学校実践演習として本校授業の公開を行っております。

また、本校は2002年度にスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、「先駆的な科学者・技術者を育成するための中高一貫カリキュラム研究と教材開発」の課題に、延長期間を含む５年間にわたって取り組んでまいりました。その実績が評価され、2007年度にSSH校に再指定され、現在は「国際社会で活躍する科学者・技術者を育成する中高一貫カリキュラム研究と教材開発―中高大院の連携を生かしたサイエンスコミュニケーション能力育成の研究―」のテーマの下、全校一丸となって２年目の事業を展開しております。特に、サイエンスコミュニケーション能力の育成に関しては、「学びあい・教えあい」をキーワードにして、中高の枠を超えた異学年合同授業や、高校生が小学生を教えるサマースクール、ワークショップなども行っております。国際交流でも、北京師範大学附属学校との交流を昨年暮れに行いました。

以上のように本校の取り組みは極めて多岐にわたっておりますが、教育機関として最も大切なことは日々の教育活動の充実にあることは言うまでもありません。本論集は、本校における教育研究・教育実践の成果を教科別にまとめたものです。本校の研究成果が、関係各位の教育活動のご参考になれば幸いです。本校及び関係各位の教育実践のより一層の充実をはかるため、本論集への忌憚のないご意見、ご批判、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

2009年3月

筑波大学附属駒場中・高等学校

校長　星野　貴行